

レクリエーション資格に関するイメージ分析

○池田孝博¹・土井真信¹・金崎良三²・山田力也³・田崎伸子⁴・堤公一⁵
 (佐賀短期大学¹・佐賀大学²・西九州大学³・西九州大学福祉医療専門学校⁴・九州龍谷短期大学⁵)

緒言

現在、(財)日本レクリエーション協会(以下、「日本レク協会」と略す)の公認指導者資格の養成形態には、主に都道府県協会が日本レク協会の方針に沿って開催する講習会などでおこなうもの(一般養成)と、大学、短大、専門学校などの高等教育機関で、日本レク協会が定めるカリキュラムを開講し、認定を受けた、日本レク協会公認指導者養成課程認定校(以下、「認定校」と略す)によるものがある(古田ら 2003)。平成 17 年度における認定校は、全国 412 校、473 講座にのぼる(ニュースター 26 号 2005)。市河(2001)は、資格取得方法の違いは、取得後の指導行動に関係しており、一般養成の方が、レクリエーション活動を積極的にを行い、自己開発や自己啓発につながっているのに対して、認定校では、卒業後の就職などに対して資格取得を有利に利用しようとする傾向があることを指摘している。近年、日本レク協会では、資格の更新率の低さが問題となっている。そして絶対的なデータではないものの、その多くが認定校で養成された有資格者と推測されており¹⁾、現在、有資格者フォローアップの取り組みがなされているところである。認定校卒業生の更新率低迷の背景には、取得時と更新時の地理的条件、更新制度、認定校における養成教育の内容など、様々な外的要因が考えられるが、学生自身の内的要因、すなわち彼らの意識にも目を向けて、その上で有資格者の更新継続、活動活性化の問題について取り組んでいく必要もあるように思われる。これまで有資格者を対象とした、活動実態・意識などの調査は数多くなされてきたが、認定校の学生を対象としたものはあまりなされていない。そこで、佐賀県レクリエーション公認指導者養成課程認定校連絡会(以下、「佐賀県認定校連絡会」と略す)では、同県レク協会が進めている、「有資格者サービス強化モデル事業」(平成 15-17 年度)とも連携を図りながら、認定校における教育内容と、資格取得後の活動支援充実を目的として、学生に関する意識調査を実施するに至った。本研究では、レクリエーション資格のイメージについての分析を試みる。特にこの発表では、取得する資格の違いからくる、資格に対して抱いているイメージの特徴について明らかにすることを目的とする。

方法

1. 調査対象

佐賀県認定校連絡会、全 7 校(大学 2、短大 3、専門学校 2)の資格申請予定者 371 名

2. 標本数

配布数 371 に対する回収数 334 件(回収率 90.03%)、うち今回分析対象にする設問に対して記載がないものなどを除いた有効回答数は 253 件(有効回答率 68.19%)

3. 調査方法

質問紙法を用い、用紙は資格申請ガイダンス時に配布、申請書提出時に回収した。

4. 調査期間 2004 年 11-12 月

5. 用いた質問文

質問紙の最後に、「レクリエーションの資格とはどのようなものだと思いますか? 活用場面・活動内容など、この資格についてあなたが持つイメージを自由に記述してください」という項目を設け、回答を求めた。なお、インストラクターと福祉レクリエーション・ワーカー(以下、「福祉レクワーカー」と略す)、それぞれについて記述を求めたが、福祉レクワーカーに関する回答が少なかったため、今回はインストラクターに関する回答のみを分析する。

表1 基本的属性

	度数(%)
年齢	
19 歳	12(4.76)
20 歳	117(46.43)
21 歳	31(12.30)
22 歳	63(25.00)
23 歳以上 (未記入 1)	29(11.46)
性別	
男性	90(35.57)
女性	163(64.43)
学校種別	
4 年制大学	72(28.46)
短期大学	90(35.57)
専門学校	91(35.97)
取得資格	
インストラクター	203(80.24)
福祉レクワーカー (含両方)	50(19.76)
進路	
福祉	131(51.78)
教育保育	32(12.65)
その他	90(35.57)

表2 編集前後の構成要素数・異なり構成要素

	分析対象	全構成要素数	異なり構成要素数
分ち書き(編集前)	253	4901	801
分ち書き(編集後) 関値=3	249	1223	113

表3 作成した編集辞書

削除	置換後=置換前
あつた	あまり…ない=あまり
あつても	なくとも=なくとも
あります	ふれあい=ふれ 合える
ある	ふれあい=ふれ 合ったり
いう	ふれあい=触れ合い
いきたい	ふれあい=触れ合う
いく	みんな=皆
いける	レクレーション=レク
いて	楽しむ=楽しむ
いても	楽しむ=楽しむ
います	楽しませる=楽しんで もらう
いる	楽しませる=楽しんで もらえる
ここに	楽しむ=楽しむ
これから	教えてほしい=教えて ほしい
させる	教えてほしい=教えて ほしい
される	教えてほしい=教えて ほしい
した	教える=教えたり
したり	教える=教えて くれる
して	考える=考え
する	考える=考えて
そう	高齢者=高齢の
その	高齢者=老人の
それ	高齢者=老人 や
たくさん	仕事=業務
ため	子供=子供たち
だ	支援=援助=援助
だが	支援=援助=支援
だろう	私(自分)=私
ついて	私(自分)=自分
では	集まる=集まる 機会
とって	集まる=集まる 場
とても	出来る=できそう
どは	出来る=できる
どう	場(場所)=場
ない	場(場所)=場所
なく	信頼(感)=信頼
なくても	信頼(感)=信頼
なって	人(々)=人
なる	人(々)=人々
には	人(々)=人たち
また	人(々)=人間
もって	人(々)=人選
もつと	人(々)=方
もの	人(々)=方々
ものだ	人前=前
よう	生かす=活かしたい
よな	生かす=生かして
よさ	体を動かす=手足 等を 動かしたり
よて	体を動かす=体 を 動かしたり
イメージ	体を動かす=体 を 動かして
為	体を動かす=体 を 動かす
何	対象(者)=対象
何らか	対象(者)=対象者
感じ	誰(に)でも=誰 にも
行う	誰(に)でも=誰 にも
行って	誰(に)でも=誰 も
際	知っている=知っている
作り	知ってもらう=知って もらい
思います	知ってもらう=知って もらう
思う	仲間(の)=仲間 作り
資格	仲間(の)=仲間(の)
事	仲間(の)=仲間(の)
持ち	仲間(の)=仲間(の)
持って	仲間(の)=仲間(の)
時	仲間(の)=仲間(の)
色々	仲間(の)=仲間(の)
知して	仲間(の)=仲間(の)
中	仲間(の)=仲間(の)
等	仲間(の)=仲間(の)
又	仲間(の)=仲間(の)
様々	仲間(の)=仲間(の)

6. 分析方法

自由記述の分析には、テキスト型データ解析ソフトウェア WordMiner を使い、テキスト・マイニングの手法で行った。WordMiner の機能やデータ解析の手法に関しては、大隅(1997,2000,2002,2004)、保田(2002,2003)をはじめとする多くの研究に詳しく述べられているため、ここでは概略を示すに留める。

自由記述から得られたテキストデータについて、「分かち書き」を行い、「構成要素」を抽出した。さらに辞書機能を利用して、句読点、助詞、特殊記号や分析にかかわりの低いと思われる語を削除した。同時に解析対象の構成要素を整理し、分析見通しを改善するため、同種の語を一つの語に置換する手続きを行った。得られた構成要素について分析を行う際に、意見(語)のバラツキをある程度整理する目的で、頻度3回以上(閾値=3)を分析対象にした。このような作業によって得られた構成要素と、性別・資格取得(インストラクターのみの学生と、福祉レクワーカーのみおよび両方取得する学生)の2つの質的変数による多次元データ解析(対応分析)を行った。

結果

1. 回答者の基本的属性

まず、調査対象とした回答者の構成について簡単に述べる。表1に、253名の年齢構成、性別、課程認定校の種別(学校種別)、取得するレクレーション資格の種類(インストラクターのみの取得者と、福祉のみおよび両方取得者)、卒業後の予定進路(記入日現在の予定)を示している。年齢の平均は21.41歳(N=252,未記入者1名, SD=3.14)であった。

2. 「分かち書き」辞書編集の結果

対象サンプル(N=253)を分かち書き処理した後の構成要素数および異なり構成要素数、さらに辞書編集後の辞書編集後の有効サンプル数、構成要素数および異なり構成要素数は表2に示した。なお、編集に使用した辞書は、ソフトにあらかじめ備えられている、記号・句読点・助詞の削除辞書と筆者が作成した編集辞書(削除と置換、表3)を使用した。

3. 多次元データ解析の結果(構成要素と質的変数[性別・取得資格])

学生の取得資格の違いにより、インストラクターという資格に対するイメージに相違があるかについて検討するため、資格のイメージ記述に使用された単語(構成要素)の関係について分析した結果を示したものが表4である。すべてのサンプル(分かち書き編集後の249)を性別と取得資格により4つのカテゴリーに分類している。各カテゴリーに寄与する語(有意にはたらく語)と寄与しない語を10語ずつ要約した。またその寄与の程度を示す検定値ほかの数値は、ここでは省略した。

- 1) インストラクター取得の女性に特徴的な構成要素は、「福祉」、「仲間作り」、「交流」、「一緒」など主に、人間関係に関連するものが上位を占めるのが特徴である。
- 2) 一方男性では、「私(自分)」、「利用者」など、レク活動の支援・援助者や主体を示す語と、「わからない」、「あまり…ない」など、否定的な表現が目につく。
- 3) 福祉レクワーカーの女性には、「役割」、「難しい」、「ボランティア」などが有意に特徴付けられた。
- 4) 男性の場合は、「計画」、「支援・援助」、「知識」などレク活動の援助実践に関わる要素と、「余暇」が上位を占める結果となった。

4. コンコーダンスによるデータ探索

カテゴリに有意な構成要素が示されたが、その解釈が難しい構成要素に対する探索的なデータ理解が必要に思われる。WordMiner では、構成要素が使用されているデータを探索することが可能であり、その一例がコンコーダンス(用語検索機能)である。たとえば、今回の分析でカテゴリに寄与する構成要素の中で、否定的表現「わからない」「あまり…ない」や「難しい」など、ややネガティブな構成要素が見られたが、それぞれどのような文脈で使用されているかを見ることが出来る。表5をみると、「わからない」という構成要素が、「何が出来るか」、「今後どうなるのか」、「活用内容」、「(資格の)意味があるか」などの表現と関わっていることが理解できる。同様に、「あまり…ない」も、活用の可能性、活用される状況を見た経験、資格取得と現在の活動状況との関係、実用性、資格という認知などに関して言及する際に使用されていることが確認できる。

まとめ

以上、取得資格の違いによるレクリエーション資格のイメージについて分析を行った。

日本レク協会は、インストラクターを「多様なレクリエーション活動を支援」し、「さまざまな遊びのメニューと、技術を持ち、楽しさの体験を多くの人に提供」し、「人と人との楽しい交流促進や、楽しさの体験に主眼をおいた技術指導の方法を学んでいる」、「『レクリエーション』という世界に興味・関心を持つ方々の入門的な資格」と定義している。またその活動内容については、「「楽しみを共にし、”人と人” ”人と自然”とのきずなづくりをする事をお手伝い」、「地域のみんなが気持ちよい生活が出来るよう、スポーツやカルチャー、福祉分野や野外活動、芸術・文化・学習活動などのレクリエーションを通して地域を活性化」、「健やかに暮らせるよう心と体をリフレッシュ」、「楽しみながら自然と共生する生き方を提案」、「個人を対象にさまざまな種目の楽しさ、新しい種目の紹介など新しい楽しさを見つけること」などとしている(引用文中下線は引用者による <http://www.recreation.or.jp/license/03/index.html>)。今回、インストラクター取得者に、「福祉」、「利用者」

表4 取得資格と性別を特徴づける単語(構成要素)の一覧

サンプル数(人)	福祉		利用者		
	女性	男性	女性	男性	
異なる構成要素数	112	88	53	40	
カテゴリに寄与する構成要素	1	福祉	活用	役割	計画
	2	仲間作り	私(自分)	難しい	余暇
	3	交流	生きがい	ボランティア	支援・援助
	4	楽しい	利用者	工夫	知識
	5	一緒に	わからない	レクリエーション	楽しませる
	6	生かす	インストラクター	参加者	仕事
	7	スポーツ	あまり…ない	思っ	考える
	8	活動	現場	迎	提供
	9	役立つ	施設	楽しさ	自然
	10	高齢者	場(場面)	ゲーム	信頼(感)
カテゴリに寄与しない構成要素	10	余暇	運動	誰(に)でも	子供
	9	施設	手助け	出来る	体を動かす
	8	役割	生かす	ために	ふれあい
	7	利用者	楽しい	考える	ボランティア
	6	参加者	活動	ふれあい	私(自分)
	5	思っ	学校	指導	スポーツ
	4	生きがい	迎	私(自分)	利用者
	3	工夫	福祉	生活	出来る
	2	楽しさ	交流	場(場面)	交流
	1	活用	仲間作り	楽しい	高齢者

表5 コンコーダンス(用語検索機能)

左の語列	検索語	右の語列
何が出来るのか良く	わからない	、実際現場(仕事)にでない何とも言えない、今後どうなるのかわからない、私は資格があっても何も出来ないと思う。
何が出来るのか良くわからない、実際現場(仕事)にでない何とも言えない、今後どうなるのか	わからない	、私は資格があっても何も出来ないと思う。
活用場面・・・履歴書に書ける、レクの	わからない	
話が出る活用内容・・・	わからない	
レクの職業をしている人は注目されるが、介護士などにおいては持っても周りとまったく変わらないため、意味があるか	わからない	、もっと注目されるべき
	あまり	活用できるとは思えない。
資格を持っていても活用している施設を	あまり	見たことがない。自分は活用していきたいと思っています。
別に持っても持っていないでも今は	あまり	関係ないと思う。
資格は関係ないと思う。	あまり	イメージがない。
インストラクターはレク・ワーカーへの橋渡しというイメージがなく、	あまり	活用の出来るものではないと思う。
施設に就職した時などに活かしたいと思う。しかし、実際、授業で学んだことはほとんど身体的に異常がなく、知的の方もレベルが高くないと活かせないようなものばかりであった。その為、実習等では	あまり	活用できなかった。もっと様々な分野で幅広く使えるような内容をしてほしいと思う。
	あまり	資格という感じがしない。
初対面の人とは仲良くなるのは	難しい	から、レクエーションが間にあることで人と人との関係を近づける役割を持つと思う。
大変そうと思う。自分には	難しい	と思った。

など福祉の業務を意識した資格イメージの構成要素が見られたのに対して、福祉レクワーカーでは、「余暇」、「ボランティア」、「楽しませる」、「楽しさ」、「参加者」、「ゲーム」など「多様なレクリエーション活動を支援する入門的な資格」を意識させる構成要素を見ることが出来た。このことは、福祉レクワーカー課程を学修した学生が、インストラクターと福祉レクワーカーの資格の特性を理解していると考えられる。それに対して、インストラクターのみを取得する学生で、福祉分野への業務志向ニーズ^{注2)}を持つものは、「多様なレク活動支援の入門的な資格」のインストラクターに対して、福祉業務を意識したイメージで捉えたり、逆にそう期待するあまり、「実習ではあまり活用できない」などネガティブなイメージを抱いたりするのではないかと考える。

今回の研究の反省として、カテゴリーに有意にはたらく構成要素からイメージに関する記述の意味内容を考察するのに苦慮した感がある。質問項目の設定の仕方に工夫が必要と思われ、広く活用できる標準的な尺度作成にむけての課題となる。今回の成果や反省をもとに、認定校として養成教育の充実と調査研究を併せて取り組んでいきたいと考えている。

謝辞

本研究を行うにあたり、調査協力をいただいた大谷久也（九州環境福祉医療専門学校）、井手一雄、吉村理英（佐賀女子短期大学）の各先生方、また調査用紙の配布回収作業にお力添えをいただきました佐賀県認定校7校の事務職員の皆様、そして調査研究助成をいただきました佐賀県レクリエーション協会、さらにデータ分析に際しまして多大なご助言を賜りました（株）平和情報センタープロダクト営業部保田明夫氏に心よりお礼を申し上げます。

注1) 日本レク協会の「平成16年度事業報告」によると、インストラクターの更新率は、全体で39.6%であり、一般養成による資格取得者が中心となる12月更新が、57.1%であるのに対して、認定校養成が中心となる6月更新では38.1%である。

注2) 日本レク協会が2003年9月に実施した全国調査によって、有資格者の2大志向(ニーズ)が明らかにされている。そのひとつが地域でボランティア活動として資格を生かしたい「地域志向」型であり、いまひとつが高齢者などの福祉施設で仕事の場で資格を生かそうとする「業務志向」型とされている。

参考文献

- ・大隅昇他:自由回答データの解析法についての提案—実験調査におけるいくつかの試み—,第25回日本行動計量学会大会,176-179(1997)
- ・大隅昇:調査における自由回答データの解析—InfoMinerによる探索的テキスト型データ解析—,統計数理48-2,339-376.(2000a)
- ・大隅昇:定性情報のマイニング—自由回答データの解析—,エストレーラ,5月号,74号,14-26.(2000b)
- ・大隅昇・Ludovic Lebart:テキスト型データの多次元データ解析—Web調査自由回答データの解析事例,「多変量解析事例ハンドブック」,朝倉書店,757-783.(2002)
- ・大隅昇他:テキスト型データのマイニング—定性情報におけるテキスト・マイニングをどう考えるか—,「理論と方法」(数理社会学会誌),Vol.19, No.2,135-159.(2004)
- ・保田明夫:WordMinerによる探索的なテキスト型データのマイニング,日本分類学会第13回・日本行動計量学会第75回共催シンポジウム講演予稿集,37-56.(2002)
- ・保田明夫他:WordMiner:テキスト型データ解析ソフトウェア—WordMiner—のご紹介,日本計算機統計学会第16回大会論文集,28-31.(2002)
- ・保田明夫他:WordMiner:テキスト型データ解析ソフトウェアの概要と追加処理機能,日本計算機統計学会第17回大会論文集,41-44.(2003)
- ・テキスト・マイニング研究会:WordMiner事例集 導入編,(株)平和情報センター.(2004)
- ・市河勉:レクリエーション指導者の指導行動に関する研究,松山東雲短期大学研究論集28,301-307.(1997)
- ・市河勉:レクリエーション指導者の指導行動と資格取得効果について,松山東雲短期大学研究論集32,151-155.(2001)
- ・松尾哲矢,谷口勇一,佐藤靖典:レクリエーション領域における資格取得とその任用に関する社会学的研究(その1)—スポーツやレクリエーション資格の機能要件分析—,Leisure & Recreation(自由時間研究)19,100-115.(1996)
- ・山本存:社会福祉現場におけるレクリエーション支援に関する基礎的研究—課程認定校卒業生の質問紙調査結果から—,Leisure & Recreation(自由時間研究)22,1-10.(1998)
- ・古田洋一,天野勤,片山昭義:レクリエーション指導者の現状(指導者登録データから),Leisure & Recreation(自由時間研究)26,69-78.(2003)